街に元気を発信し続けるメディアサークル

人が溢れる。情報が氾濫する。活動が見える。賑わいのショーケース
芸術、文化、情報のシャワーを思う存分浴びよう！
見て、聞いて、参加して、体験して交流の輪を拡げよう！

大湯環状列石からイメージされたラウンドフォルム

構造イメージ

外周部の拘束スチールリングと木製の屋根面によるハイブリッドの強固な大屋根により、耐震壁で囲んだ剛強なホール躯体部分へスムーズに力を伝達して高い耐震性を確保します。

全ての施設が最大限に連携・融合するために、ひとつの器に内包させることを意図した単一フォルムによる外観デザイン

冬の西南西季節風によるビル風を低減させるための曲面壁

複合するメリットを最大限に引き出す、図書館２階配置

図書館２階配置のメリット

- １階のアプローチ動線の自由化
- 市民センターを１階に集約可能
- 建物平面形がコンパクト化し、広い屋外交流広場が確保可能
- 建物外形がコンパクトになり、建設・空調等コスト削減に寄与

近隣に配慮した機械配置

機械室・室外機を、近隣住宅から距離のある西側に配置し、防音壁の設置で騒音などの影響を最小限に抑えます。

ガラスの高天井小ホール

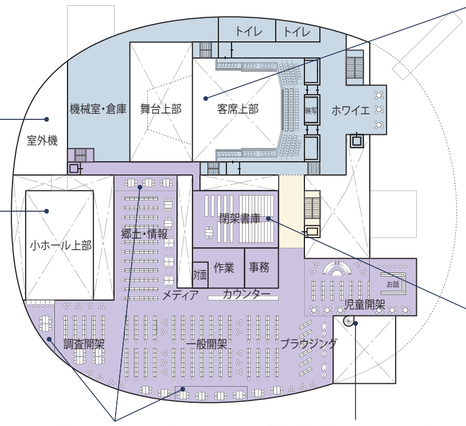
小ホールは天井高さ 6m で、二重遮音構造の採用で防音防振性を確保します。ガラスで仕切られた小ホールの文化活動がそのまま共用部や図書館に表出し、視覚的なつながりとにぎわいを作ります。遮光カーテンにより完全暗転可能とします。

図書館から見おろす吹抜

吹抜はエントランス付近と、閲覧席まわりに配置。２階図書館利用者に１階の活動の気配が伝わり、文化活動への関心を高めます。

大臣認定の取得

高天井を利用した、避難安全検証法による大臣認定取得により、排煙設備と内装制限を緩和します。



格調高い文化ホール

音楽専用ホールに匹敵する音響性能を目指し、この規模のホールに最適な残響時間 1.8 秒を実現します。
秋田杉を利用した内装
演劇・講演転用を考慮した残響可変装置の設置

格調高い文化ホールイメージ

ガラスの閲架書庫

バックスペースもガラス張りとして作業のすべてを公開し、市民が図書館の活動に興味を持ち、ボランティア参加を促します。

サイレントルーム

「にぎわいあふれる図書館」にあって、静かに読書をしたい利用者のために、ガラスで遮音した読書室を用意します。

児童開架とプレイルーム

児童開架とプレイルームを吹ネット遊具」や専用連絡階段動線でつなぎ、本の共有など、連携して利用します。

２階平面図

歴史と環境を考慮した形

大湯環状列石をイメージしたラウンドフォルムは、風害の抑制、周囲への圧迫感の軽減、表面積の最小化によるコスト削減に効果的です。

アメニティを守る雁木

建物外周部に、軒の深い雁木空間を設置します。雨・雪の日も市民の文化活動を妨げない計画です。

国道に最大限開いた広場

屋外交流広場は、市の中心軸である国道 282 号に間口いっぱいに開き、人のにぎわいが外に溢れ出る配置とします。イベント時に施設内外を一体利用して、商業施設のような集客力を獲得します。

小ホールイベント用広場

小ホールで行われる様々なイベントを想定し、バザーやライブなど小ホールと一体的に活用できる広場を用意します。

図書館専用の搬入動線

２階図書館のために専用エレベーターや専用通路を確保し、搬出入のしやすさに配慮。

防風林を西側に配置

西南西からの季節風の影響を低減するため、西側に防風林を配置。花輪線や住宅街に対する修景効果もあります。

バックに配置した駐車場

歩車分離と建物の景観を考慮し、駐車場は建物の西側に配置。搬入動線も兼用し、敷地を合理的に活用します。

世代間の交流に配慮

子育て支援センターと、高齢者利用が多い和室エリアを近接させるとともに、その中間にその間にラウンジを配置。世代間の交流を促進させます。

事務所のセンター配置

施設中央に配置し管理の利便性と利用者への万全なサポートを行います。

マルチ利用できる調理室

調理室を交流広場に面して配置。イベント時にはオープンなライブキッチンとして活用可能。カフェ厨房や、ホールホワイエへのドリンクサービスなどの多目的利用も可能です。

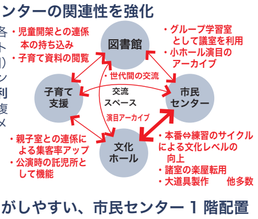
01

課題①　５つの施設・機能で構成する複合施設として、施設相互の有機的結びつきや共有空間の有効活用など、複合施設のメリットを最大限発揮するための考え方について

各施設間距離をコンパクトに集約することで、市民活動の密度を高め、賑わいを作り、様々な交流が生まれる施設配置とします。

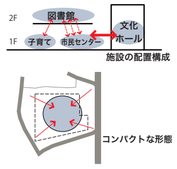
文化ホールと市民センターの関連性を強化

- 当社事例を踏まえ、各施設間に様々なメリットが考えられます。（右図）
- 文化ホールと市民センターの間に、**活性化と利用率アップ**につながる複合する数多くの強いメリットがあります。



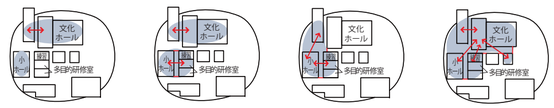
複合するメリットを最大化する図書館２階配置

- 文化ホールと相互利用率の高い市民センターを１階に、**図書館は BDS の導入を考慮**し、独立管理しやすい２階に配置。
- 図書館２階配置によって建物全体が**コンパクトな形態**になり、施設間距離が縮まり、相互利用しやすくなります。また十分な広さの外部交流広場が確保できます。



施設間の転用・兼用がしやすい、市民センター１階配置

- 市民センターと文化ホールを隣接させることにより、多目的研修室などの市民センター諸室を楽屋に、小ホールをリハーサル室に転用でき、**大規模イベントへの対応**が可能です。また**施設全体の利用率がアップ**します。



①通常利用　②多目的研修室を小ホールの楽屋として利用　③文化ホール不使用時、楽屋を小ホール側で利用　④市民センター諸室を文化ホール楽屋に利用

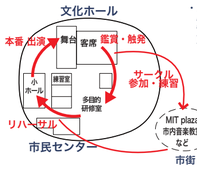
02

課題②　新たな文化・交流の創造と地域社会の活力や賑わいを創出するための施設のあるべき姿と、その実現に向けて市民との共動の手法によって施設整備並びに施設運営を進めていく考え方について

市民活動スペースが施設内外に渡って全方位に連続し、賑わいが外にあふれ出る計画とします。

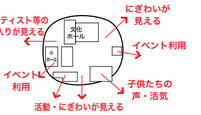
練習→本番のサイクルを誘発する平面構成

- 市民の文化活動の、練習から本番へ至る過程を「見せる」ことで、今まで関心のなかった人々が刺激を受け、触発され、創作意欲をかき立てられ、**サークル参加や練習行為を誘発**し、市内全体の文化活動を活性化します。



活動をまちに発信する

- 施設配置、開口の工夫により、**内部の活動が外からよく見える構成**とし、文化活動をまちに発信して人々を惹きつけます。

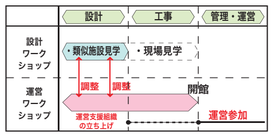


施設整備と運営のワークショップを並行して開催

- 施設整備以上に、**新施設の運営方法や、市民がいかに使いこなすかが非常に重要**です。当社のこれまでの市民参加コーディネートの経験から、設計ワークショップと運営ワークショップの２つを並行して開催し、**開館後も市民が主体的に運営参加できる体制づくりをサポート**します。
- 議事進行に、ファシリテーター（劇場専門家）を起用することを提案します。（当社にて推薦も可能です。）

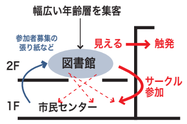
設計ワークショップ：市民の意見を聴いた上で、設計者が計画を提案する手法をとる。

運営ワークショップ：ボランティアによる運営参加、市民によるイベント企画のための勉強会や提案を行う。



図書館利用者を文化活動に引きずり込む

- 図書館は本来幅広い年齢層の人々を集客する施設です。２階に配置した図書館から１階の市民センターを見おろしやすい配置とすることで、幅広い層の人々を触発し、活動参加を誘発できます。**市民センター利用率を大幅にアップ**させる効果があります。



にぎやかな図書館

- 図書館から見おろす吹抜はあえてガラスで仕切らず、声や音が届く作りとします。こうすることで**気軽に相談・議論ができる雰囲気**を作り出します。

03

課題③　環境に配慮した省エネルギー対応と自然エネルギーの有効活用や、建設及び維持管理コストの最適化によって総合的に経済的な施設を実現するための考え方について

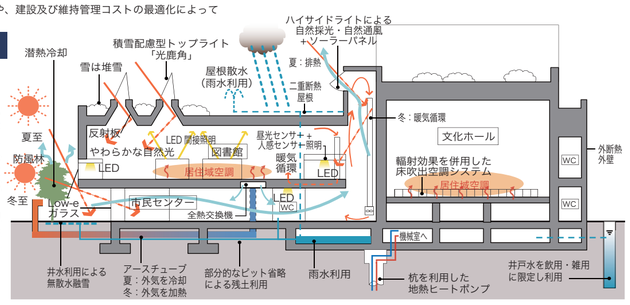
コンパクトな施設ボリュームで効率的な運用を可能にします。

消費エネルギーと環境負荷を最小限に抑制

- デシカントシステムを採用。
- 外断熱、Low-e ガラスの採用等により断熱性能を強化。
- 運用における**年間 CO2 排出量を 30% 削減**。
- CASBEE（簡易版）においてＳクラスを目指します。
- 表示端末や Web を活用して消費エネルギーや太陽光発電量を「見える化」し、市民の環境意識を啓発。

LCC を 25% 縮減

- 建物の平面形のコンパクト化により外壁面積の縮減や暖房システムの効率化、ダクト・配管ルートの短縮などにより、建設コストを削減します。
- 高断熱化、自然エネルギー利用、熱循環利用、設備システムの高効率化などにより、**光熱水費を 25% 削減**します。
- BEMS の採用によるエネルギー監視の集中化、耐久性やメンテナンス性に優れた材料の採用などにより、委託費、修繕費を削減します。



04

課題④　その他の提案（独自に課題を設定）

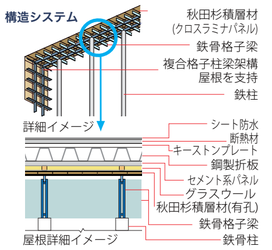
災害に強く、人に優しい 100 年以上持続する建築とします。

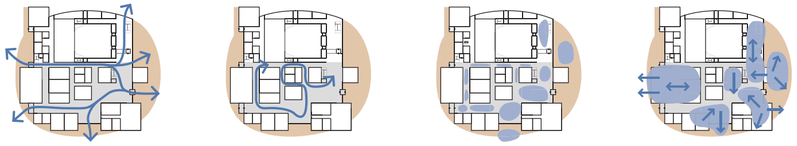
防災対策、耐震性、安全性

- スチールと秋田杉のハイブリッド構造を採用
- 大地震に対する**耐震性能を基準法の 1.3 倍以上**確保
- 新しい耐震基準による天井落下防止処置
- 電力と油の多重化熱源により停電時も空調可能
- 非常用発電設備を設置（３日分の油備蓄）
- 備蓄倉庫、受水槽を７日分、非常用排水層を設置
- 市水と井水の２系統給水を採用

ユニバーサルデザイン

- サイン等は視認性、直感的な理解に配慮
- 車いすに配慮した通路幅や、手すりの設置、段差の解消などを徹底
- 自然素材を使ったシックハウス対策
- 子供たちの安全に配慮した、突起物の排除





どこからどこへでも

全方向からの施設アプローチを可能にすることで、建物の表裏を消し去り、全方位に渡って活動状況がみえる**施設の賑わいの顔を街に向かって発信**します。

自由に動き廻ってみる

行き止まりの動線を無くすことで点在する多様な活動を巡廻して見学できます。新しい発見や出会いがあるかもしれません。

自分の居場所をみつける

廊下の概念を取り去った共用活動空間には、至る所に家具を配置し、各自が自由に利用して**居場所を作り出すことができます。**

活動の場はどこまでも拡がる

ガラス開放扉、障子、可動間仕切等を活用することで、各諸室だけでの利用形態から開放し、**共用部を含めた一体的な活動を可能**とします。